OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ロサンゼルスの印象
Author(s)	中土井, 隆
Citation	大阪公衆衛生. 1966, 18, p. 19-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84438
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ロサンゼルスの印象

中　土　井　　隆

空から見おろすロサンゼルスの夜景は全く美しく，そのすばらしさはこの町が広漠とした平野を占め，アメリカ第三の大都会であることを想わせるでしょう。

昼間見るロサンゼルスは南国の強い太陽に育てられた田園優美の地域を含みながら，反面合衆国の他の都市に比べて開発のおくれたせいもあって油田の臭いさえ残っており，現在近代化への途上にある都市であると云うにともできます。

メキシコや南米からの移民も年々20万人近くあり，人口の増大は更にこの南国商工業都市の近代化と発展を助長することでしよう。

空港から車でフリー・ウェイを50分近く行くと，下町北端にあるスタトラー・ヒルトンホテルがあるが，この近くのアパートメントでの６ケ月の留学生活，それは貧しいものではあったが愉快で時にクレイジイーなものでした。

ロサンゼルスには日系人が10万人近くすみ合衆国本土ではもっとも対日感情のよろしい都市の様であり，小生など始めて海外へ出た田舎者には幸いしたといえます。

アメリカ人の食生活に早く順応しようと始めの２ケ月ほどの間はコーヒー・ショップでの外食につとめ，好んであちらの食事をとれることができましたが三食はきちんとそして腹一杯摂取していた日本での習性の故に，吸収率のよいあちらの食物の毎日では食間での空腹感には耐えがたい時もありました。

独身主義者が約10%いるといわれるアメリカでの独身

生活は合理的にかつ快適にすごすことができ，例えば夕方すぎからスーパーマーケットに出かけても独身らしき男性の客の数が圧倒的に多かったりで，未経験の自炊にもトラブルを感じることがなかったが，すくなくとも粋人のそれとはいいがたい生活であったようです。

ロサンゼルスの様な大都市の下町周辺では，住宅事情も決して豊かなものではなく，南加州大の学生たちも２ベッドルームで二人が同居して割安になる様にしています。中流以上のサラリーマンでも自分の家を持とうとすると月 200 ドル前後の月賦を払って25年も続けなければその家が我家にならないとの事だし，車を次々と買い換えたり，モーターボートを買ったりでお金をセーブできないのが現状の様であります。

短期間のこと故，ルームメートになることを断って，65ドルの家賃のアパートに入り貸テレビにも月15ドル払っていたので留学生としては経済的でなかったかも知れません。このアパートのオーナーは毎週一度づつマネジャー夫妻に逢いに来て帳簿を調べます。

オーナーは５階建ぐらいのアパートを10近く所有しており相当な金持だそうでだいたいアメリカのホテルやアパートの所有者のスケールといえばこんなものだそうです。マネジヤーの方は月 180 ドルぐらいの給料が与えられ，老夫婦は玄関の部屋を与えられますが，実に仕事に忠実でよく働きます。

社会保障制度がかなり行き届いている国だといわれるアメリカでも現実にはその保障額は十分ではないらしくそれだけで老後の生活を送るのは困難といったのが実情の様です。従って老人たちもあらゆる職場で働いている様であり細々と安ホテルで生活を送り，新聞のクロスワードパズルやロビーのテレビのミュージカルをエンジョイしている人が目に余るほど多いのも事実です。



大気汚染パトロールカーが規則違反車を追跡ポロライドカメラで証拠写真をとる。



APCDの制服インスペクター

閑話休題，南カリフォルニア大学はロサンゼルスに存在する最大の総合私学であります。

下町の西側，オリンピックの競技場が集る附近にバラの花園“エクスパジション・パーク”と向い合ってこの大学の校庭が存在している。

小生の留学した“大気汚染研究所”は行政学部が分校として借りている下町スプリング通りのビルを使って，毎年２回各期６ケ月の大気汚染防止に関する講習を本年１月より開講するために設置されたものである。

この講習には合衆国政府公衆衛生局がスポンサーとなり，大気汚染の全ての分野の権威が講師として集められその目的を“防止に関する行政”へ位置づけようとされた。

この試みは合衆国では始めてのものであり，多くの機関の関心を集めている。

広い教養とよりプラクチカルな人間の養成，これがアメリカ教育の最大の目標であり，この講習の中にも教育の手法としてひんぱんにとり上げられています。

旅行者などがロサンゼルスでそのスモッグに出合うとき当初不可思議の思いを寄せるであろう“光化学的スモッグ”にも，この都会の中で市民と共に生活することにより，市民の深い認識と協力の態度を知らされるでしょ

APCD＝Air Pollution Control District

う。

直面するロサンゼルス・スモッグ問題を解決するため，カウンティのＡＰＣＤはあらゆる活動を続けています。

調査や対策の業務は着実に進められ，成果は積み重ねられています。イージィー・ゴーイングであるかもしれませんが，むだのすくないことは事実です。

法律やこれらの成果は広く市民に公報されて，市民からの違反の訴えも多い様です。

〝光化的スモッグ〟の制御のために国をあげて強力なエネルギーが注がれつつあるが，ロサンゼルス地方に清浄の空気がもどる時期近しという要素は多くない。

（なかどい・たかし　　大阪市立衛生研究所）